

京大病院の基本理念

- ① 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
- ② 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
- ③ 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

京大病院広報

KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NEWS

2019.06
vol.118

CONTENTS

- 01 特集
新病院長就任のご挨拶
- 03 特集
患者総合サポートセンター 開設
- 05 もっと地域とつながる
ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者さんを地域と共に支えます。
- 07 京大病院管理栄養士おすすめ!季節の食材
暑い夏を乗りきろう!
- 09 読むクスリ
お薬を飲み忘れた時の対応、
知っていますか?
- 10 おしえて!専門外来
漢方外来



新病院長 就任のご挨拶

本年4月1日付けで、
脳神経外科学教授の宮本享が
第41代病院長に就任しました。

患者さんに信頼され 社会の期待に応えるチームでありたい。

京大病院はここ数年どんどん進化しています。2015年に新しく南病棟を開設し、災害医療にも対応できるヘリポートを設けました。今秋には高度急性期治療を担う中病棟とiPS等臨床試験センターが完成予定です。その後も既存病棟の改修が続きます。こうした病院機能の充実を図るベースとなっているのが、京大病院の「あるべき姿」をめざして2013年にとりまとめた将来構想です。高度急性期医療と高度先進医療を両立し、未来につながる研究を進め、医療に貢献し続けようと「病院再整備計画」を定めて前進してきました。

移植医療やがんゲノム医療、そしてiPS細胞、がん免疫など最先端の医療や研究への取り組みは京都大学の特長ですが、その一方で脳卒中や循環器病など救急医療への対応をこの数年積極的に進め、国立大学病院としてトップクラスの救急応需件数になっています。今年度からは地域連携を専門に担当する病院長補佐を設け、かかりつけ医の先生方と共に地域の健康と医療のサポートに一層の力を注いでいきます。また「患者総合サポートセンター」の開設をはじめ、患者

さんの利便性向上につながる施策を今後も導入していきます。

京大病院の「あるべき姿」の実現には、設備や体制を整備するだけではなく、現場の一人ひとりが「京大病院をよくするためにどうすればいいのか」を考え、行動できることが何よりも大切です。それをチームとしてのベクトルにまとめていくのが、病院長である私の仕事だと思っています。同時に「京大病院で働いてよかった」と思える、チームスピリットを共有できる組織でありたいと願っています。

さて、最高の医療を提供し、最高の研究をめざそうとすると、いろいろな困難に遭遇して判断に迷うこともあるでしょう。そのようなときに大切なのはぶれない基軸となる考え方をもっていることです。病院の目標は安全・安心な医療を提供することですから、私は「For the patient(患者さんのために)」を判断の基軸と考

えています。困ったとき迷ったときにその基本に立ち返れば、自ずと進むべき方向は見えてくると思います。

私は患者さんに信頼される脳神経外科医を目標としてこれまで過ごしてきました。“For the patient”とは医師になった時からの自分自身の判断基軸でもあります。

これからも京大病院は、患者さんの信頼を得られる病院として、社会の期待に応えられるよう、職員がひとつになり力を尽くしていきます。

みやもと すすむ
京都大学医学部附属病院 病院長 宮本 享

1982年京都大学医学部卒業後、国立循環器病研究センター脳血管外科で研修生・レジデントとして研修を行う。1991年京都大学脳神経外科助手。同講師、助教授を経て2003年国立循環器病研究センター脳神経外科部長。2009年より京都大学大学院医学研究科脳神経外科教授。副病院長を経て2019年4月より現職。